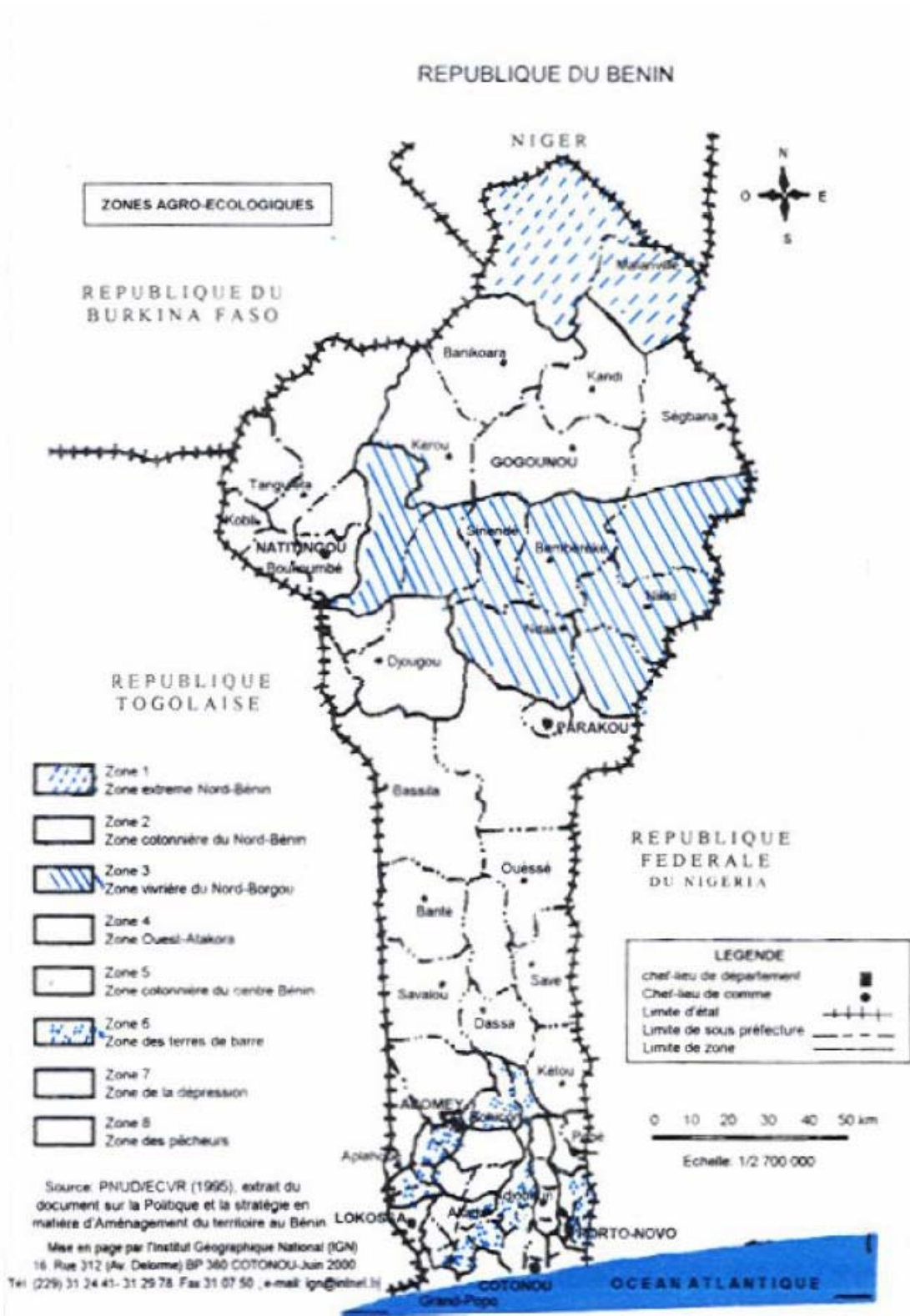


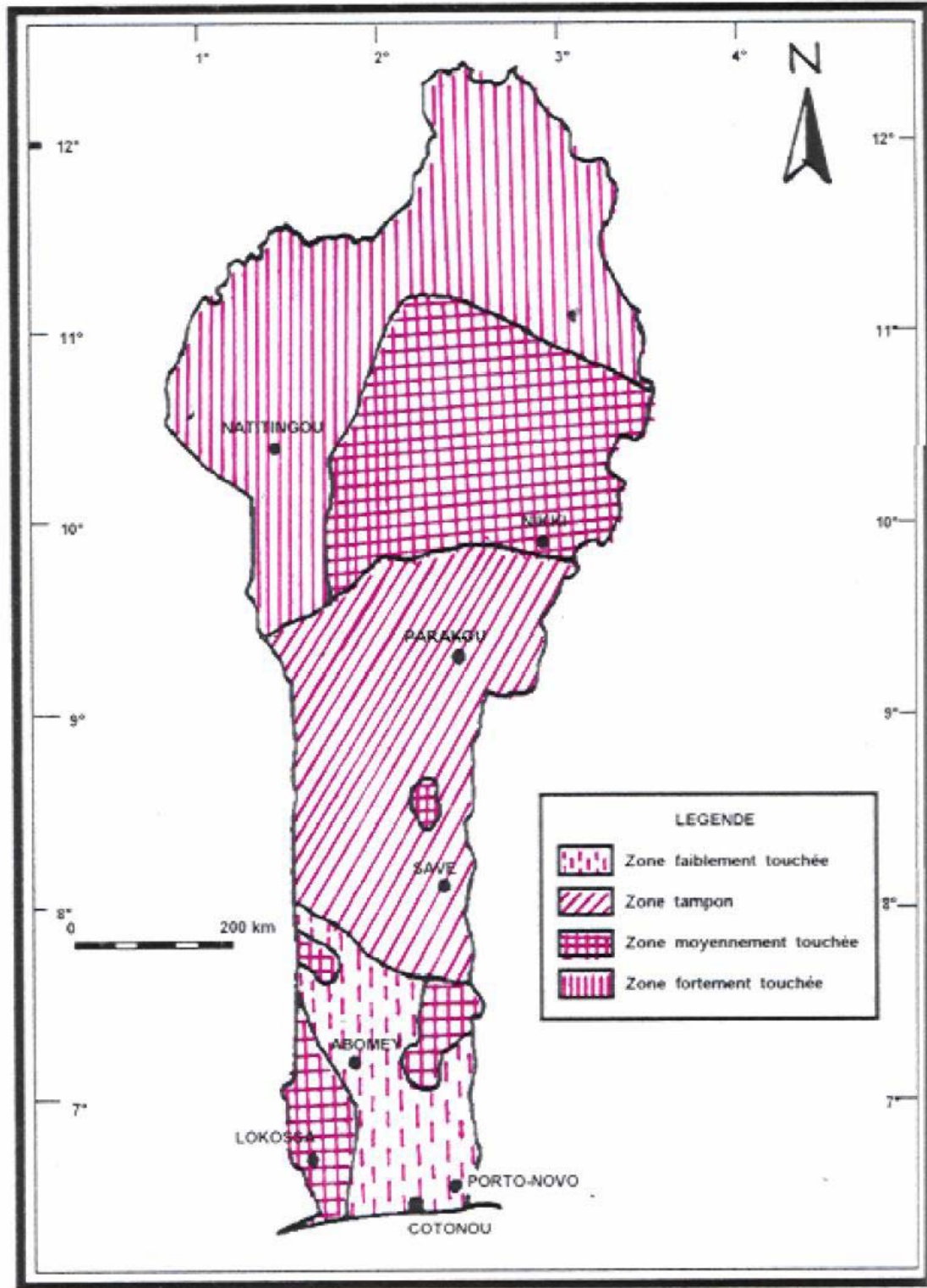
国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
ベナン	112,622 km ²	675万人 —	N 6 10'~12 25' E 0 45'~3 55'	US\$ 521	農業 サービス業(港湾業)
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・土地劣化は、化学的劣化、物理的劣化及び塩類集積の3タイプがみられる。これら土地劣化は、スーダン-サヘルゾーンのMeteri, Natitingou及びOuakeで見られる。また、Banikoara及びKandiのスーダンゾーン中央東部及び北西部、並びにMalanville, Karimama及びGueneなどスーダンゾーン北部及び北東部においてもみられる。 ・最もひどく劣化しているのは、Boukoumbe及びOuake地域の1240km²、スーダン-ギニア移行ゾーンの3150km²及びスーダン-ギニアゾーンの高原斜面の3750km²である。 ・最も深刻な影響を受けているのは、Boukoumbe, Cobly, Materi及びTanguietaにまたがる地域である。この地域は、急傾斜な半乾燥地域であり、斜面での不適切な農業が深刻な侵食を引き起こしており、地域全体で帯状に裸地化、砂漠化が進んでいる。 ・砂漠化の要因としては、北部の山脈及び丘陵地帯の急傾斜な地形、気候及び水路の変動、過放牧や過耕作による土壌と植生劣化が挙げられる。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・平均降雨量 北西部及び南東部 1400-1500mm 北部及び北東部 850-1000mm ・降雨パターン 7 45'以南 乾期2回、雨期2回 8 30'以北 乾期1回、雨期1回 7 45'~8 30' 上記2地域の間 			<ul style="list-style-type: none"> ・広大な水晶のような準平原が特徴的であり、丘陵も多い。 ・アタコラ山脈がトーゴ、ガーナ、ナイジェリアへ伸びており、ゴルマ高原を占めている。 ・ナイジェリア流域、ペンジャリ(Pendjari)流域、海岸流域が三大流域。 ・主要水資源は、Nokoue湖、Aheme湖、Toho湖、Ouidah沼、Porto-Novo沼、Grand-Popo 沼。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の65%が灌木植生に覆われている。 ・N 10~12 30' 灌木及びサバンナ林 ・N 8 ~ 9 30' 密生した乾燥林及びclear forestとサバンナ 			<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯紅褐色土壌 70% (tropical ferruginous soil) Ferrallitic soils 7-10% Hydromorphic soils 5-8% Veric gree soils 5% 粗末開発鉱物土壌 5-7% (rough and undeveloped mineral soils) 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土面積の約60%が耕作可能だが、実際に耕作されているのは、そのうちの20%にすぎない。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・1997年に国家行動計画を適用し、開発パートナーの支援を得ながら、環境保全のための制度整備や砂漠化及び干ばつコントロールのためのプロジェクトを実施している。これらプロジェクトの実施により、現場での技術移転が進んでいる。 ・砂漠化対処及び干ばつコントロールの戦略として次の8つが挙げられている。 <ol style="list-style-type: none"> ①水資源の合理的管理と開発 ②エネルギー保障 ③食糧保障 ④天然資源の保護・保全 ⑤土地管理 ⑥様々なレベルの利害関係者の能力開発 ⑦貧困削減 ⑧土地政策の修正と実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・ベニンは現在経済構造調整中である。 		
			対外負債(公的及び公的保障長期負債)		
			1,689.7百万米ドル		

1) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (次頁以降では、「外務省HP」と記す)

ベナン アグロエコロジカル・ゾーン



ベナン 砂漠化の影響を受けているゾーン



国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
ボツワナ	582,000km ²	168万人(2001) 2.4% (1991~2001)	S18° ~27° E20° ~30°	US\$ 3,983	農業、畜産 鉱工業

砂漠化の現状と要因

- ・国土の大部分は半乾燥地である。
- ・ボツワナでは水が最も貴重かつ不足している資源の一つである。

気象・気候

- ・半乾燥気候。南西部は乾燥気候である。
- ・主な雨期は、11月～3月、10月～4月。
- ・平均年降雨量は、南西部の250mmから北東部の650mmの幅がある。
- ・降雨強度は、通常24時間に100mmであるが、1時間に60mmという強い雨が降ることもあり、このような強い雨は植生が貧弱なところでは特に土壌侵食を起こす。
- ・可能蒸発散量は2000mmである。

地形

- ・全般的に平坦である。東部は標高差があり、水食が多く、丘陵や谷、岩盤露出も多い。
- ・国土の平均標高は1,000mである。
- ・土壌侵食は主に水と風によって起こる。
- ・通年の水源は、オカバンコ湿原及びチョベ河のみ。北部では、雨期には地表流が広がる。西部は、沼地や化石河川を除いて乾燥している。

植生被覆状況

- ・国土の大部分はサバンナタイプの植生に覆われている。中でもsand-veld植生が国土の65%を占めている。(veld:アフリカ南部で特徴的な低木疎林)
- ・農村世帯の92%、都市世帯の43%が燃料を薪に依存している。(薪炭への依存を減少するため石炭利用の促進が検討されている。)

土壌

- ・Hardveld, Sandveld, Lacustrine, Alluvialの4ゾーンに区分される。農業に利用されるのは、前者2ゾーンだけである。
- ・全般的に土壌が浅く、クラスト化し、乾燥しており、あまり肥沃ではないので農業生産には適さない。

農業の実施状況

- ・家畜は数少ない水源に集中するため、水源周辺では過放牧となり、土地劣化を起こしている。
- ・土地は、国家所有、個人所有、部族の土地の3タイプがある。それぞれ25%、4%、71%となっている。
- ・気候変動による主食であるメイズとソルガムの収量減少が予測されている。
- ・HIV/AIDSが農村に集中する貧困対策を困難にしている。

農業農村開発戦略

- ・**コミュニティを基礎とした農村開発戦略**:コミュニティ自らが経済的ニーズを特定し、そのための行動を起こすことによってより効果的かつ持続的に貧困を削減し、農村経済の向上を目指す。
- ・**農村開発の国家政策の見直し**:分野横断的、統合的かつ多様なアプローチによる農村開発を目指す。
- ・**農業開発にかかる国家政策**:世帯レベルにおける食糧保障の向上、農業生産の多様化、雇用機会の増大、農業生産者のための保障された生産的環境の提供、次世代のための限られた農用地の保全。
- ・**コミュニティを基礎とした天然資源管理、放牧地**についての部族政策、耕作地開発プログラム 他

国家行動計画の概要及び取り組み状況

砂漠化対処の7優先分野

- ① 貧困緩和及びコミュニティのエンパワーメント、特に実行可能な持続的代替的生計プロジェクトの実施を通じたもの
- ② 様々な利害関係者のネットワーク及びパートナーシップの構築
- ③ NGOを含む様々な利害関係者の能力開発
- ④ 砂漠化対処のための財政源への経路と活用メカニズムの開発
- ⑤ 教育及び技術移転
- ⑥ 研究及び情報収集・分析・発信能力の強化
- ⑦ 天然資源の持続的利用を管理

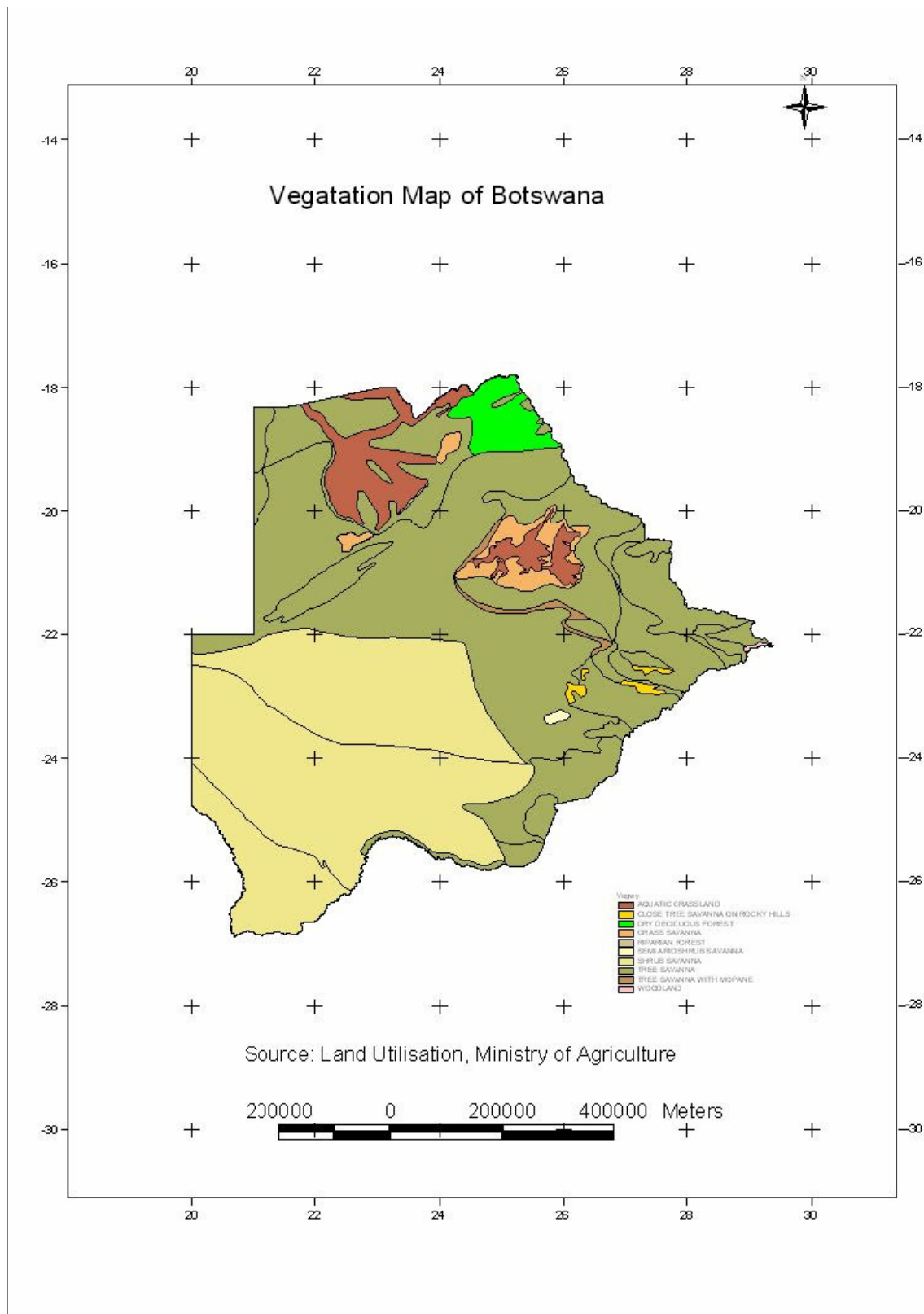
国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助

対外債務(公的及び公的保障長期負債)

463.9百万米ドル

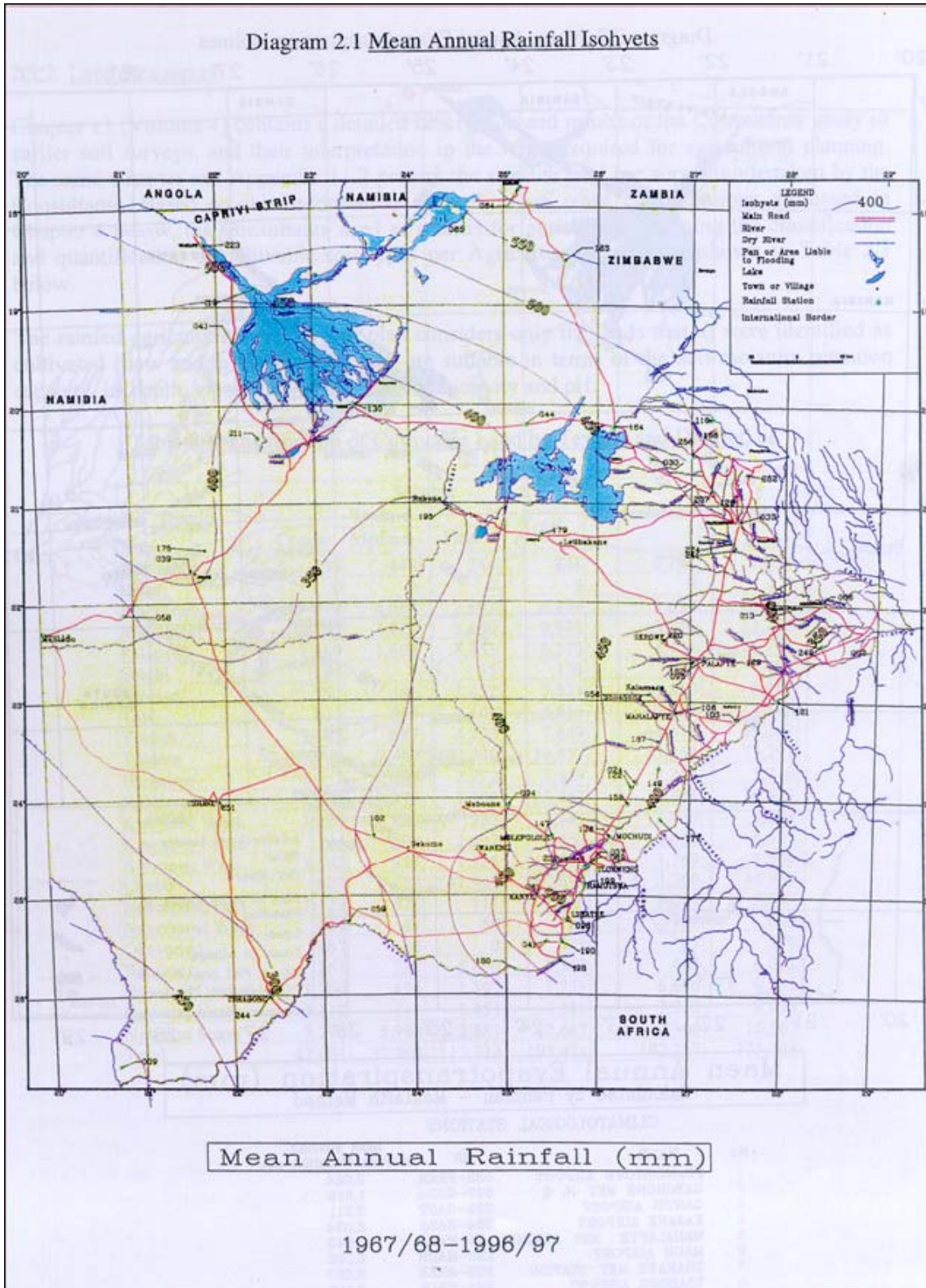
1) 外務省HP

Figure 2.6 Vegetation Map of Botswana



ボツワナ

Diagram 2.1 Mean Annual Rainfall Isohyets

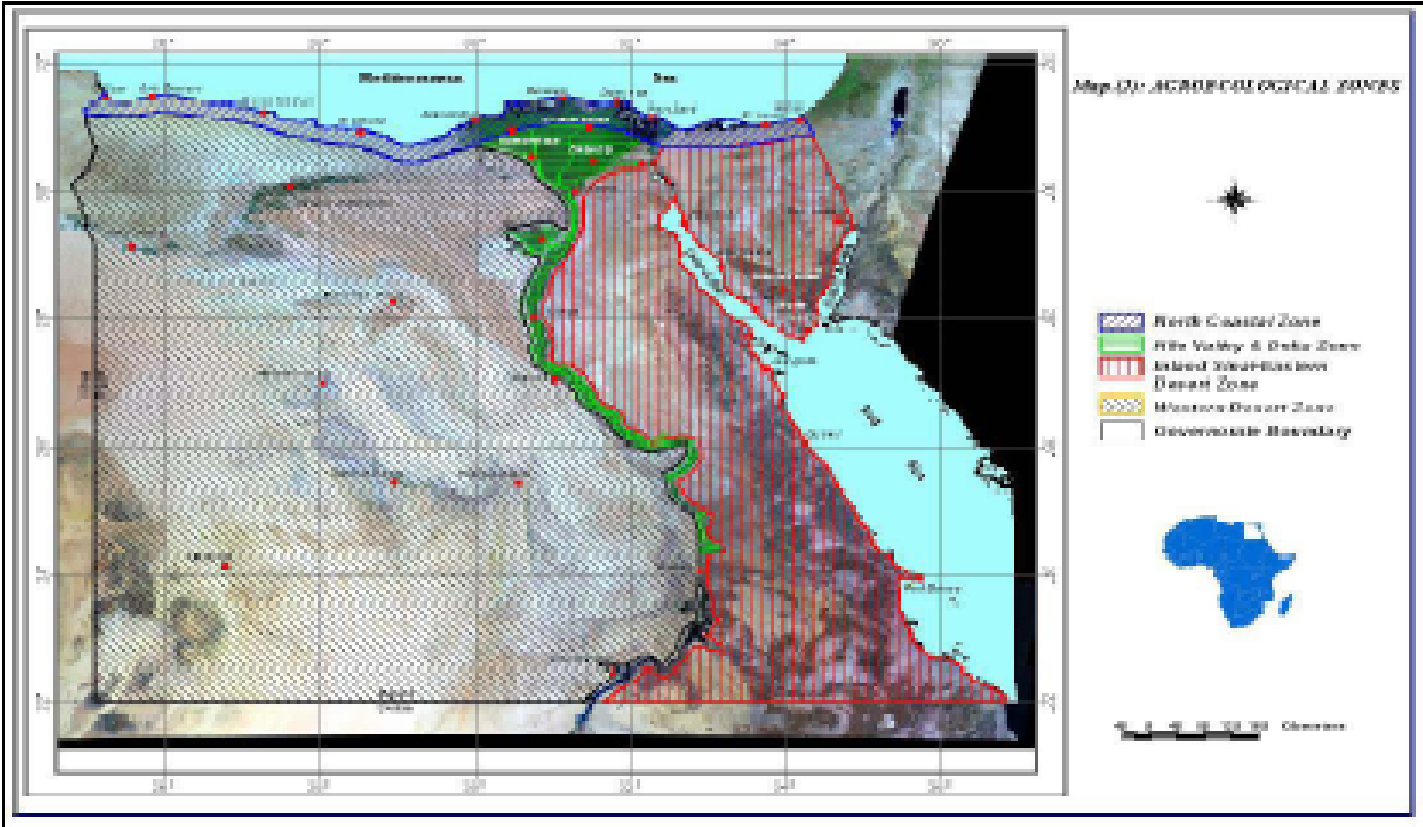


国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
エジプト	約100km ²	7100万人(2005推定) 1.90%	N 22° ~32° E 25° ~35°	US\$ 1,062	石油、観光 農業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> エジプトは4つのアグロエコロジカルゾーン(ナイル渓谷、北海岸ゾーン、内陸シナイ及び東部砂漠、西部砂漠)に分類され、各ゾーンで環境が異なるので、砂漠化の要因及びプロセスも異なる。従って、砂漠化対処もこの多様な自然環境に応じて実施される必要がある。 砂漠化の主な要因としては、①都市地域の肥沃な土地への拡大、②不十分な水源管理、③非持続的農業生産、④植生被覆の消失及び牧場等他の用途への転換。 土地劣化のプロセス:①都市化(不可逆的な土壌機能の消失)、②塩類集積(灌漑農地の30%)、③水と土地の化学的汚染、④土壌生産性の低下、⑤風食、⑥水食、⑦砂丘等砂による農地や居住地の囲い込み。 砂漠化の影響:①天然植生被覆率の減少及び牧草資源の減少、②風食や水食の増加、土壌有機物の減少、砂嵐の増加など水及び土地資源への影響、③水源汚染や砂嵐等による健康被害、砂による村の埋没や道路閉鎖など社会経済的影響。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> エジプトはサハラ及びアラビア砂漠にまたがる北アフリカ及び西アジアの極乾燥地域に位置し、大部分は年降水量は50mm未満である。 極乾燥帯(N 22° ~30°) 温帯な冬(10~20°C)、暑い夏(20~30°C)。 シナイ南部の高地では、冷涼な冬、暑い夏で年降水量は30mmである。 乾燥帯:地中海からスエズ運河に伸びる地域で冬に降雨を伴う。沿岸部では乾期が短く、内陸部では乾期が長い。年降水量は乾燥が弱い地域で100~150mm、乾燥が強い地域では20~100mmである。 30°C以北では降雨はほとんどない。 			<ul style="list-style-type: none"> ナイル河が主な淡水源である。 ナイル渓谷とデルタに二つの地下水帯水層があり、これらが潜在的砂漠化対処の唯一の水源である。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> 国土面積に対して植物の種は少ない。 大部分の植生はワジまたは窪地に集中している。 			<ul style="list-style-type: none"> ナイル渓谷及びデルタゾーン:ナイル沖積層 北海岸ゾーン:ローム層 内陸シナイ:Lithic and Typic Torriorthents, Torrifluvents, Torripsamments 他 東部砂漠:小石を含む粗〜やや細かい土壌 (Typic Torripsamments, Typic Torriorthents, Typic Torrifluvents) 西部砂漠:Lithic or Typic Torripsamments and Torriorthents, Typic Haploalids 他 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> 農業生産を行っているのは、国土面積の3%でナイル渓谷及びデルタゾーンの660万haに集中している。 大部分は灌漑農業である。 牧畜は北海岸ゾーンの主な土地利用となっている。 農業は、GDP及び輸出の20%を占めており、国家経済の主要セクターである。労働人口の33%が農業に従事。 農村人口は全人口の57%(1996年)であり、過去30年間割合はほとんど変わっていない。 			<ul style="list-style-type: none"> 1985年度から1989年度:生産・価格の自由化等の改革を実施 1986年「第2次5ヵ年計画」:1991年までに62.7万フェダンの農地開発を実施。(50億トンの水が必要)。2000年までにジョグレイ運河とナイル河上流プロジェクトの完成により年間95億トンのナイル川の水が利用できるようになる見込み。 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> 国家行動計画を遂行するため、2001年に国家調整委員会が設立された。この委員会は農業・土地開拓省を始めとする関係省庁に加えて、NGO及び研究者も加わっている。さらに、科学委員会も設立された。 国家行動計画は4つのアグロエコロジカルゾーンの属性に焦点を当てており、自然環境、砂漠化の状況、国家行動計画の視点や課題、問題等を述べている。 4つのゾーンにおいて計19のプロジェクトが用意されており、各プロジェクト、プログラムを説明している。 過去に実施された砂漠化対処活動(援助含む)の見直しや国家行動計画実施上の問題点等についても記載している。 砂漠化対処プログラムの特徴として、①明確な土地利用政策、②砂漠化対処活動を支持する制度整備、③恒久的財政源の確保、④土地所有改革、⑤国際機関等からの財政的・技術的支援獲得が挙げられる。 			<ul style="list-style-type: none"> WFP(1963-1973, 1979~) 土壌・水資源の向上 FAO(1965-1970, 1988~) 近代的農業技術を用いた農業生産の向上 GTZ(1988)農村開発のための土地利用計画、環境モニタリング、農業気候ステーションの設立 ICARDA, DRC, ARC(1995)農業活動、土壌肥沃度、水資源管理、社会経済観点等からの資源管理 JICA(1989)北シナイにおける地下水を補助的に用いた農村開発 等 		
			対外負債(公的及び公的保障長期負債)		
			26,623.8百万米ドル		

ICARDA:

DRC: Desert Research Center

ARC: Academy of Scientific Research and Technology agriculture Research Center



国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
エリトリア	124,320 km ²	3,500,000(1997) 2.90%	N 12 - 18° E 36 - 48°	US\$ 305	農業、鉱工業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・土地の劣化は、気候条件、森林消失、過放牧、過耕作、土壌浸食、土壌肥沃度の減少等により生じている。 ・砂漠化の要因として、気候条件、人口圧、不適切な農耕、不適切な灌漑、土壌侵食、土壌溶脱が挙げられている。 ・土壌侵食については、中央高原ゾーンでは水食が、砂地で平坦で、植生被覆が乏しい海岸平野ゾーンでは風食が主となっている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・東アフリカのサヘルゾーンに属する。 ・年間降雨量は、不十分であり、変動が大きい。 ・長雨期が短くなってきている。 ・六つのアグロクライマティックゾーンに区分される。 ・特に農業にとって重要なのは、中央高原ゾーン及び南西低地ゾーンである。遊牧及びアグロパストラルは、北西低地ゾーン及び海岸平野ゾーンで優占している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・急峻な山岳地帯が多い。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・森林(高地森林、植林、林帯(woodland)は、国土面積の6%を被覆している。 					
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・耕作可能な土地は118万haあるが、実際に耕作されているのは44万haにすぎず、これは国土面積の3.5%に当たる。そのうち、42万haは雨水依存型で、残りの2万haが灌漑農業である。 ・農業は主に自給用。作物の収量は極めて低く、栽培シーズンはわずか2～3ヶ月と短い。 ・耕作地は人口増加と土壌侵食により強い圧力を受けている。需要を賄うため、もろい、非持続的な地域へも農地が拡大している。 ・国土の56%は耕作より牧草に向いている。 ・獣医学の発展に伴い、家畜数が急増している。 ・農作物の輸出拡大のため急激に農業の近代化が進んでいる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な土地所有や植民地時代の権力の無視が土地劣化に影響を及ぼしていることから、1994年に土地所有システムを変えるため土地改革宣言が出された。 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の要因を次の12の分野に分けて詳細に説明している。土地、農業、水、エネルギー、生物多様性、森林、家畜及び牧場、定住、干ばつへの準備、啓発、教育及び研修、社会経済、住民参加。 ・国家行動計画の5本柱 <ol style="list-style-type: none"> ①知識の向上 ②住民と機関のエンパワーメント ③女性や遊牧民など社会的弱者への配慮 ④収入創出による貧困削減 ⑤土地劣化への対応及び砂漠化のコントロール ・行動計画の5本柱と行動計画の中で説明した砂漠化の12の要因とのマトリックスに基づいて23の砂漠化対処のためのプロジェクトを提案している。これら23プロジェクトを実施するために3800万米ドルが必要と見積もっており、そのうちの10%を国内で調達し、残り90%は外部支援が必要としている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・対外負債(公的及び公的保証長期負債) 496.4百万米ドル 		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
エチオピア	1億1300万ha	53,477,265 (1994) 3.0% (1995-2002)	N 4 - 17° E 35 - 48°	US\$ 91	農業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> 乾燥、半乾燥、乾燥半湿潤地は国土面積の70%を占め、これは、農耕可能地の46%に当たる。 乾燥、半乾燥地は、主に標高1,700mm以下の低地に位置する。 森林の消失、過放牧等が主な砂漠化の原因となっている。 標高差に富む地形が、水食や風食を受けやすくしている。水食は、特に高地に隣接している北西及び南西部に多く、風食による土壌侵食は毎年6月から9月にかけてみられる。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> 標高1800m以上の高地帯は温暖な気候で、年降水量は800～2000mm。 低地帯は暑く、年降水量は200～800mm。 乾燥地は、年平均気温が21～27.5℃、年降水量は100～800mm。 半乾燥地は、年平均気温が16～27度、年降水量は300～800mm。 			<ul style="list-style-type: none"> 標高は110mから4620mまでと標高差に富み、これが気候及び生態系の多様性をもたらしている。 主要な湖はZeway, Langano, Abaya, Chamoなど11、主要河川流域はAwash渓谷など12ある。これら潜在的水資源は大きく、水力発電や灌漑、漁業等へ活用しうる。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> 森林及び灌木による被覆率は、11.7%。 このうち、天然林による被覆は2.4%。 森林消失は、土地劣化の主要因となっていることからエチオピアにおいて大きな問題となっている。 			<ul style="list-style-type: none"> 気候及び地形の多様性が、土壌の多様性をもたらしている。 乾燥地の土壌は、未発達で、砂と区別し難く、部分的に火山由来の土壌もみられる。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> 国土の60%は、農業利用が可能と報告されている。 耕作地は国土面積の14.8%、恒久的牧草地は51%を占める。 気候や生態系が多様なことに伴い、農作物や動物種も多様で、作物遺伝の多様性上重要な位置を占める。 灌漑は、塩類集積や水に関係する病気の蔓延化を引き起こしている。 牧畜民が農耕も行うようになってきている。 ドナーの援助により、遊牧民の定住化が促進されているが、環境にダメージを与えるなど否定的な面が指摘されている。 			<ul style="list-style-type: none"> 1975年から1985年にかけて商業用作物生産を目的として国家農地が設立されたが、失敗に終わった。 国家経済政策は、農業開発一産業化として知られている。この政策は、市場経済への移行を目指しており、地方への権限委譲や所有資源を管理する権利の回復など、市場経済化のための環境整備を謳っている。また、この政策では、小作農業の生産性の向上を中心に据えており、灌漑や施肥、農地の拡大、情報の伝達や普及等による支援を謳っている。 現在のところ、農村の土地利用に関する政策はない。 急傾斜地における耕作や無秩序な放牧による土壌侵食を阻止するため、土壌及び水保全政策案が検討されている。 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> 砂漠化対処に向けたアプローチとして、「土地及び他の天然資源の持続的活用と保全を通じた人々の幸福の増加」を最終目標に定め、「地域の経済発展」「環境及び天然資源の管理と保全」など10の原則を掲げ、さらに目標、政策を記載している。 加えて、八つの分野のアクションプログラムを記述しているが、これらは活動の箇条書きに留まっている。 農業分野については、「農業の強化と多角化」のためのアクションプログラムとなっており、「野生の果樹やナッツ、葉が食用になる植物の栽培」、「灌漑農業の拡大」、「伝統的知識を用いた持続的農業システム」、「外部からの投資と技術の選択的活用」「土地所有政策を含む適切な政策の保障」、「伝統的知識と近代科学の統合による生態学的、社会的に持続可能な農業システムについての研究」などが挙げられている。 			<ul style="list-style-type: none"> 干ばつの被害を受けた地域や周縁地域で数多くの土壌及び水保全プロジェクトが実施されてきた。 SIDA: Arsi地域におけるChilalo農業開発ユニット Wollo地域における土壌及び水保全 世銀: WolaytaにおかるWolayta農業開発ユニット 最小パッケージプログラム Sirinka流域回復パイロットプロジェクト イタリア: Kobo及びJijiga統合開発プロジェクト オランダ: Golina-Homrat流域開拓プロジェクト World Food ProgrammeやFAOも土壌保全プロジェクトを支援。 		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			6,313.4百万米ドル		

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
ガンビア	10,689 km ²	1,298,000 -	N 13 - 14° W 13 - 17°	US\$ 224	農業、貿易 観光
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の影響として、過去20年に植生被覆の減少、土壌侵食、塩類集積などが視覚できるほどになっている。 ・砂漠化による土地劣化が最も深刻な地域は、半乾燥地のSudano-Sahelianゾーンで、国土面積の約75%を占める。特に、ガンビア川の北側の土手が深刻な状況である。 ・人口増加に伴う農用地及び非農用地への圧力の増加が砂漠化の主原因であると同時に、砂漠化対処の妨げとなっている。人口増加の背景として、西アフリカ諸国からの難民や小地域からの移民の存在がある。 ・非持続的な天然資源利用や不明確な土地所有システムも砂漠化の原因となっている。 ・さらに、国土の三方をセネガルに囲まれているという地理的条件から、ガンビア国だけでは砂漠化への対処が困難となっている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・Sudano-Sahelianタイプ: 雨期(6月-10月)と乾期(11月-5月)に分かれる ・年平均降雨量は900mm ・年平均気温は25℃ ・主なアグロエコロジカル・ゾーンはSahelian, Sudano-Sahelian, Sudanian, Guineanの四つである。 			<ul style="list-style-type: none"> ・洪水平野、堆積斜面、低地台地、高地台地の4つに分けられる。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・サバンナ林帯を主として、沿岸地域の林地及び灌木帯、マングローブなどもみられる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・上記4区分の地形毎に土壌が異なる。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・農業及び畜産はGDPの30%、労働人口の70%を占めている。 ・以前は、ピーナッツ生産が主であったが、米や穀物、園芸種など食料作物へと農業経営の多角化が政府によって進められている。 ・園芸生産も近年順調に増加しており、畜産と同様にGDPの5%を占めるようになった。 ・農業に適した土地は、既に耕作されており、近年は休閑地の休閑期間が短くなる傾向があり、地力の低下が懸念されている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営の多角化 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・ガンビアでは森林分野におけるコミュニティ参加を進めており、また、ガンビア環境行動計画において組織的強化と効果的調整メカニズムを構築しており、水士壌保全分野では簡単で効果的な技術の普及能力を構築しており、さらに地方分権化を進めている。これらの背景を踏まえて、砂漠化対処国家行動計画の実施に当たっては、次の三方面から取り組むこととしている。①コミュニティ及び利害関係者の継続的能力向上、②高地の土地管理に係るパイロットプロジェクトの強化、③優先的対策の実施。 ・国家行動計画の実施に必要な資金と調達可能な資金とのギャップを踏まえ、国家行動計画の実施に当たっては、民間セクターとの協力、既存プロジェクトとの連帯、生物多様性及び気候変動への取り組みとの調整などの原則を掲げている。 ・優先的対策の分野としては、森林、野生動物管理、家畜及び牧場管理、農業及び水士壌保全、組織的枠組み、情報発信による啓蒙を挙げている。 ・国家行動計画の実施における各省庁の役割を明確にしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助 		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			503.6百万米ドル		

Figure 3: UPLAND AGRICULTURAL PRODUCTION AND LAND RESERVE

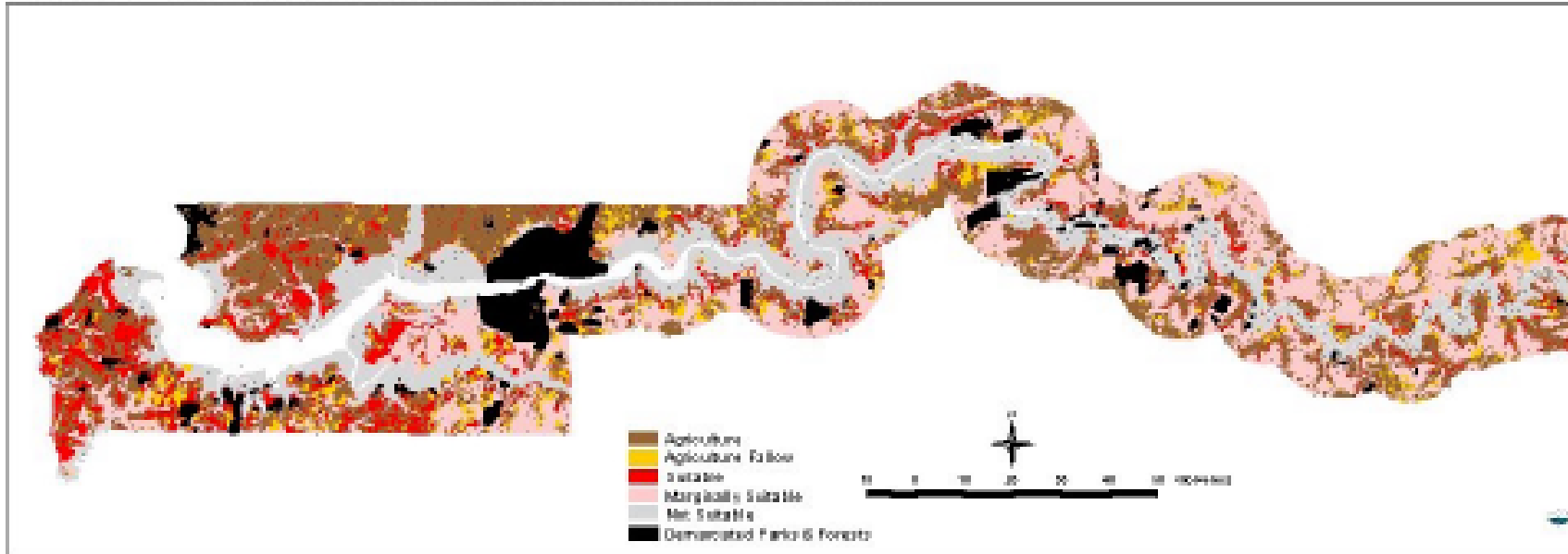
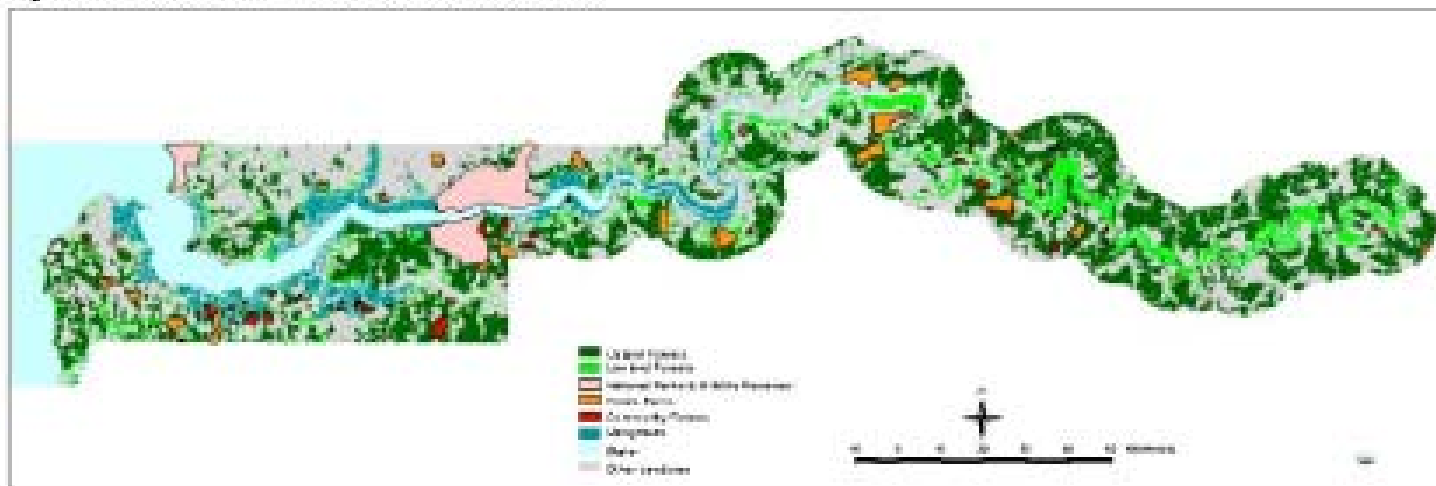


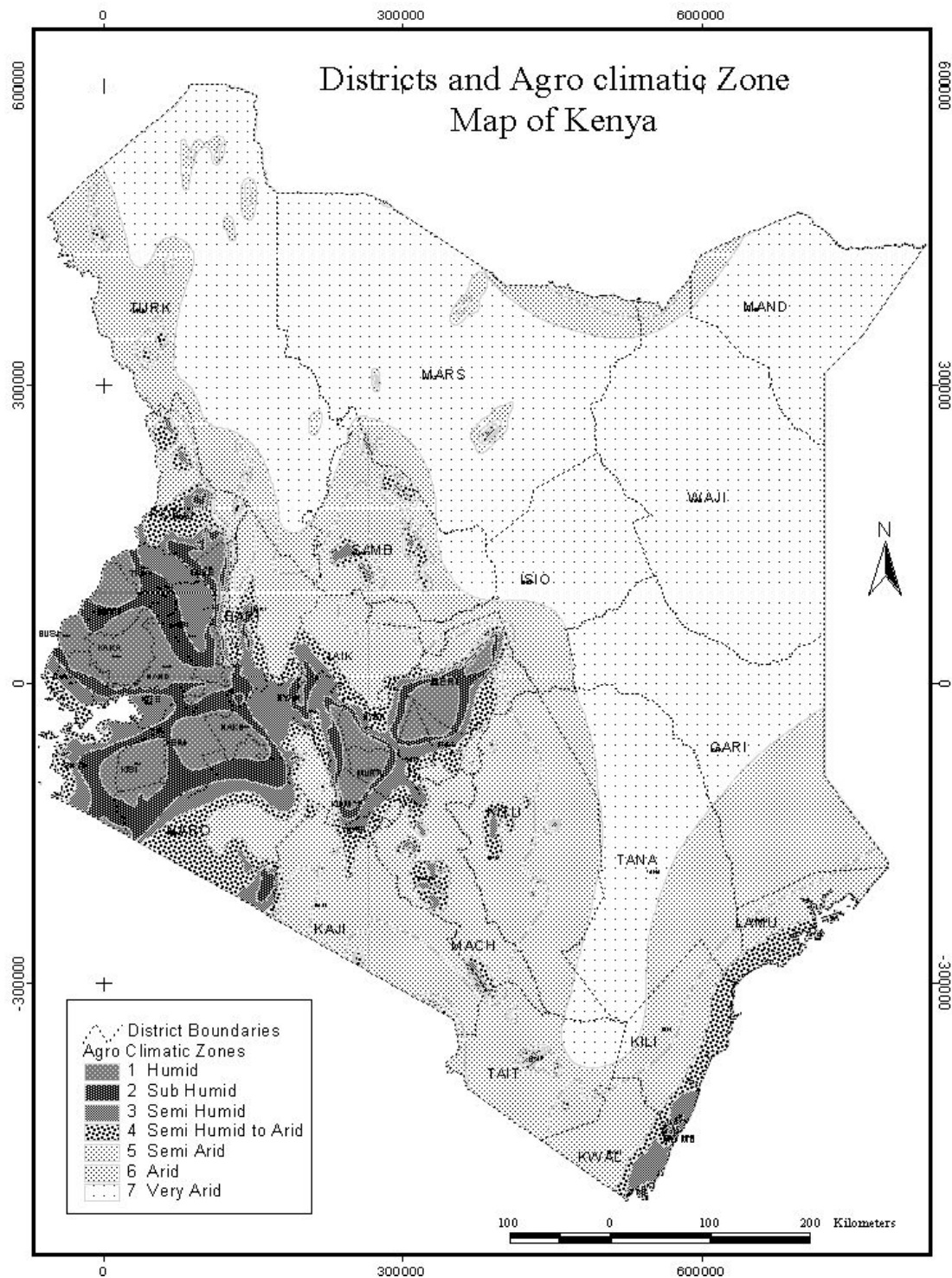
Figure 4. FOREST COVER OF THE GAMBIA AS OF 1993



国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
ガーナ	238,539 km ²	18,400,000 (2000) 2.6%	N 4 44'-11 15' W 3 15'-E 1 12'	US\$ 354	農業、鉱業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの国土面積の35%が砂漠化の傾向にあると推定されている。近年の調査では、砂漠化の傾向がある土地は近年2倍になったことが示されている。 ・ガーナの土地劣化は、土壌の侵食、固結化など物理的劣化、土壌養分の枯渇や塩類集積など化学的劣化、及び有機物の流出など生物的劣化を主要プロセスとして進んでいる。 ・国土の約50%が土壌侵食を受けやすい地域であり、上方東部地域が最も土地が荒廃している。 ・砂漠化の生物物理学的要因としては、生来の低い土地生産性、塩分浸入、起伏、空間的・時間的に不均衡な降雨及び干ばつ等が挙げられる。社会経済的要因としては、人口圧、持続的な農耕、森林破壊、過剰放牧、野火、不適切な化学肥料や殺虫剤の使用、土地所有の保障の不足、移住、貧困などが挙げられる。 ・干ばつ及び砂漠化が土地生産システムや水資源に悪影響を及ぼし、貧困を引き起こしている。 ・砂漠化は、土壌生産性の減少、農産物収穫の減少、植生の質的・量的悪化など天然資源及び環境に多大な影響を及ぼしている。また、林産物の減少、飢饉、栄養不足、移住及び社会的コストの増加、収入の低下、貧困の増加などの社会経済的影響を及ぼしている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・スーダン・サバンナ・ゾーンは雨期は5-6月で年1回。乾期は6-7ヶ月と長い。年平均降水量 885mm、年平均気温 28.6度。 ・ギニア・サバンナは雨期のパターンはスーダン・サバンナに似ている。年平均降雨量 1,033mm。年平均気温 28.1度。 ・沿岸サバンナゾーンは雨期が2回あり、年平均降水量は810mm。年平均気温は27.1度。 ・森林サバンナ移行帯は、雨期が2回で年平均降水量は1,250mm。年平均気温は26度。 			<ul style="list-style-type: none"> ・全般的にゆるやかな起伏をもつ。大半の地域の標高は153-244m。 		
植生被覆状況			土壌		
			<ul style="list-style-type: none"> ・主な土壌は、Lixisols, Acrisols, Nitisols, Luvisols, Lithosols, Plinthosols, Gleysols及びCambisols。 ・沖積土と侵食された浅い土壌は全国的にみられる。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・農業は、農村労働人口の70%、GDPの45%を占めており、最も主要な産業となっている。 ・農業分野はココア以外の農作物、ココア、森林、家畜、及び漁業の5つの副分野からなる。 ・農村における農産物加工施設は不十分である。 ・市場における小規模土地所有農家の位置は極めて弱く、伝統的な市場では収穫後の損失や市場情報不足が問題となっている。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画のアプローチ及び戦略として突出している点は、次のようなものがある。 <ul style="list-style-type: none"> * 通年の植被は砂漠化対処の基礎であり、これは、水さえ手当てできれば可能である。 * 水調達は砂漠化対処の全ての戦略の基盤である。 * 適切な土地資源管理技術を人々に教育・訓練することが必要である。 * 砂漠化の原因や影響を人々に認識させることが必要であり、参加型による教育や啓発が砂漠化対処のエントリーポイントとして考慮される。 * アグロフォレストリーや作物と家畜の組み合わせなど土地利用システムの多様化はリスクを軽減し、農民の干ばつに対処する能力を高める。 * 土地に対する人口圧を軽減するための代替生計システムの提言 * 天然資源を持続的に管理し、砂漠化に対処するためにはコミュニティの参加が不可欠である。 ・次の七つのアクションプログラムが提言されている。 <ol style="list-style-type: none"> ①土地利用及び土壌管理、②植被の管理、③野生動物及び生物多様性の管理、④水資源管理、⑤農村のインフラ開発、⑥エネルギー源管理、⑦貧困削減のための社会経済的環境の向上 各プログラムについて経費が見積もられている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・対外負債(公的及び公的保証長期負債) 6,129.1百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
ケニア	590,000km ²	2840万人 (-)	N5° 40'~S4° 4' E33° 50'~41° 45'	US\$444	農業、観光
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・陸地の88%が乾燥地である。ここに約1千万人(総人口の30%)が居住しており、家畜の50%、野生動物の70%が生息している。(家畜の3分の2が乾燥地で飼育されているという記述もある。) ・頻発する干ばつ、人口増加を背景とする湿潤地から乾燥地への人々の流入、過放牧、非経済的な小面積への土地分割等が土地劣化を招いている。 ・乾燥地域に住む65%以上の人々が貧困ライン以下の暮らしをしている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥地の年平均気温 250~1000mm ・雨期2回 3月~5月、10月~11月 ・海岸地域は比較的降雨量が多い。 ・高原地域は降雨量が多い。 ・Nyika高原は乾燥及び半乾燥気候。 			<ul style="list-style-type: none"> ・海岸地帯から乾燥高原、サバンナ草原、リフトバレー、第地溝帯、ケニア山、エルゴン山まで多様な地形を呈している。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・森林被覆は定住や耕作、商業用及び自家用伐採、薪炭利用のため急激に減少している。森林被覆率は国土面積の2.8%。 					
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ケニア最大の産業であり、1989年にはコーヒーと茶のみで輸出総額の48%を占める。1980年代にはGDPの約30%を占める。 			<ul style="list-style-type: none"> ・第6次開発計画(1989~1993年)における農業の目標は、①食糧の国内自給の達成、②政策的備蓄の増強、③輸出作物の増産。 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・1997年にUNDP/UNSOから財政的支援を受けて国家行動計画を策定。 ・国家行動計画の第I部は砂漠化対処条約に批准した背景及び1930年来行われてきた砂漠化対処の努力のレビューが書かれており、これらを踏まえて、国家行動計画を実施するための財政調整と同時に組織的調整、利害関係者の動員や啓蒙によるさらなる達成が示されている。第II部には優先地域と活動及び対策が述べられている。第III部には、実施戦略が示されている。 ・地域コミュニティによる砂漠化対処に焦点を当てる特別な砂漠化対処コミュニティ・トラスト・ファンドを含む優先地域のための財政源とメカニズムが示されている。 ・環境情報システムを用いたモニタリングと評価も強調されている。 			対外負債(公的及び公的保証長期負債) 5,138.7百万米ドル		
			<ul style="list-style-type: none"> ・観光が外貨収入の25%を占めており、その舞台の多くが乾燥地であることから、ケニア国の社会経済開発において乾燥地は大きな役割を果たしている。 		



国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
レソト	30,355 km ²	1900万人	S 29 - 31° E 27 - 29°	US\$594	農業、牧畜業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化は、天然資源の過剰搾取と不適切な管理による生態的生産性の減少として現れる生物-物理的 土地の劣化及び土壌消失や土壌肥沃度の減退、土壌の保水能力の減少などによる土地劣化として 理解される。 ・土地の劣化は土壌侵食という形が最も多く、降雨により全国的に耕作地や牧草地にガレーやリルが 生じている。 ・過放牧、過耕作といった土地の不適切な管理が土壌侵食を引き起こす原因となっている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・降雨パターンは変動的かつ予測困難である。 ・雨期は春早くから始まり、秋まで続く。激しい雨や 雹・あられも多い。 ・冬は、時折高地では降雪、低地では雨が見られる が概ね乾燥している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・標高1460mから3400mにかけての急峻な山岳地形。 ・高地に湿地帯があり、稀少な動植物が生息している。 		
植生被覆状況			土壌		
			<ul style="list-style-type: none"> ・低地では砂岩由来、山岳地帯で玄武岩由来の土壌。 砂岩由来の土壌は極めて侵食されやすい。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・粗放農業が主となっている。 ・牧草地は共有、耕作地は半私有所有となっている。 ・過去20年間に、土壌侵食のため10万haの耕地が 消失し、これは、食糧及び飼料生産ために利用可 能な土地が25%減少したことを意味する。 1970年代に比べると近年は土地の生産性も激減 している(例:メイズ 2t/ha→860kg/ha)。 ・牧草地の荒廃も深刻で、放牧地の拡大による 希少種が生息する高地湿地帯の生態系への影響 が懸念されている。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画の実施を準備し、調整を図る機関 として国家環境事務局が1994年に設立された。 ・国家行動計画のアプローチとして、政府、NGO、ド ナー、国民の協力を謳っている。また、国家行動 計画実施の最初のアプローチとして、進捗状況の 指標の設定を挙げている(添付資料に案)。 ・次の五つの分野のプログラムを記載している。 ①平等、貧困緩和、連帯と参加 ②天然資源への圧軽減のための技術的対策 ③機関、組織及び手段 ④知識支援、学びとコミュニケーション ⑤干ばつへの準備と干ばつ救済措置 ・未荒廃地の予防的措置と劣化がひどい地域の 回復を優先としている。 ・地理的な優先地域としては、レソト南西部のマセル 県の一部とMafeteng, Mohale's Hoek 及びQuthing 県を挙げている。 			対外負債(公的及び公的保証長期負債) 611.1百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
マラウイ	118,480 km ²	9,933,868 (1998) 1.9% (1995-2002)	S 9 25'-17 08' E 33° -36°	US\$158	農業
砂漠化の現状と要因 <ul style="list-style-type: none"> ・リフトバレーの谷地、北部Mzimba、Phalombe平野の大部分が乾燥地である。 ・リフトバレー沿いに伸びる280万haの半乾燥地及び乾燥半湿潤地に住む約300万人(全人口の30%)が砂漠化の影響を受けている。 ・砂漠化及び環境劣化の主原因として、深刻な貧困、高い人口増加、天然資源への過度な依存が挙げられている。人口増加に伴う周縁部への農地拡大、森林伐採が土壌侵食を起こしている。 					
気象・気候 <ul style="list-style-type: none"> ・大陸性気候で気温の季節変化が大きい。 ・年平均降水量は500-1125mm ・乾燥地の年降水量は650-800mmであり、降雨期間は6週間低度。年平均気温は25度。 			地形 <ul style="list-style-type: none"> ・北部のカロンガ県から南部のNsanje県にかけてリフトバレーの急峻な断崖が続いている。北Mzimba及びPhalombe平原にも乾燥地が広がっている。 ・マラウイ湖、マロンベ湖、シレ川がリフトバレーに位置する。 ・国土の20%を占めるマラウイ湖が南北に縦断しており、標高差は40mから3000m。 		
植生被覆状況 <ul style="list-style-type: none"> ・国土面積の27.6%が林地 (forest estate) である。農用地の拡大や道路建設のため、1972年から1990年にかけて、リフトバレーでは年1%の割合で森林が消失した。 			土壌 <ul style="list-style-type: none"> ・斜面の土壌は浅く、石質である。 ・渓谷の土壌は概して深く、堆積砂からvertisolまでの間に位置するものが多い。 		
農業の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・農村人口の98%は、小規模農家で、その内の55%は1haに満たない耕地しか持たず、食料需要を満たすことができない。 ・これら小規模農家の生産性は低い。周縁部や農耕に適さない土地まで小規模農家が拡大しており、土壌侵食や地表流水の供給などに否定的な影響を及ぼしている。 ・農業がGDPの70%を占めている。 			農業農村開発政策		
国家行動計画の概要及び取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画に向けて取り組むべきこととして、次の八つの分野を挙げている。 <ol style="list-style-type: none"> ①環境管理 ②食糧保障 ③水資源の管理と開発 ④再生可能エネルギー ⑤森林消失 ⑥伝統的知識システムと技術 ⑦組織的調整 ⑧財源調整 ・①環境管理については、政府がやるべきこととコミュニティがやるべきことを具体的な活動レベルで記述している。 ・⑦組織的調整、⑧財源調整については、具体的な記述はない。 			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助 <ul style="list-style-type: none"> ・USAID: 天然資源保全管理支援プログラム(天然資源管理に関する政策、制度、組織的役割等の見直しと調整) 		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債) <p>2,687.9百万米ドル</p>		

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
ニジェール	1,267,000km ²	7,248,100 (1998) 3.30%	E 0 16'-16 N 11 01 - 23 17'	US\$227	農牧業、鉱業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> 国土面積の4分の3が熱帯砂漠の北部ゾーンに位置する。 砂漠化の原因として、気候変動、植被の軽減による風食及び水食、不均衡な地理的人口分布などが挙げられる。さらに、農村住民の貧困が規模の大きい集約的技術の適用を制限し、砂漠化の要因の一つとなっている。 地域固有の砂漠化の原因としては、Maradi, Tahoua, Zinder, Tillaberi及びDiffaでは野火や風食が、Ader-Doutchi-MaggiaやTarka, Goulbinなどの河川沿いでは水食が挙げられる。さらに、MaradiやDossoなどの農業砂丘地帯では人口圧により地力が低下している。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> 非常に乾燥しており、国土の大部分は砂漠気候に属する。雨期が1回の熱帯気候に属する地域もある。寒い時期は10度を下回る。 3月～5月は、熱風が吹き、気温は45度を上回る。 6月～9月は雨期で平均気温は33度。10月～12月中旬は比較的湿潤で平均気温は35度。 降雨量によって国土は4つのゾーンに分類される。 サハラゾーン:年間降雨量100mm、気温は35度上回る。 サヘローサハリアン:年間降雨量100～300mm サヘロースーダン:年間降雨量は300～600mm スーダンゾーン:年間降雨量600mm以上 			<ul style="list-style-type: none"> 非常に広大な準平原が広がり、起伏に乏しく、平均標高は300mである。 東部にチャド湖があり、チャド湖の北西部分の300km²がニジェールに属している。 西部をニジェール川が約550kmに渡って流れる。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> サハラゾーンは不連続のステップ。 サヘリアンは見通しのよい灌木から木が散在する植生への移行状況を示している。 サヘロースーダンは、断続的な草本からなるサバンナ及び低密度の灌木からなる。 スーダンゾーンは、サヘル地域より木本が多く、サバンナ植生からなる。 			<ul style="list-style-type: none"> 山岳及び広大な平原地帯は、lithosoil 化石河川の谷底、チャド湖、河沿いはvertisoilsが優占している。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> 土壌は栄養分及び有機物に乏しく、生産性が低い。耕作に適しているのは、国土の12%に満たず、土壌は養分及び有機物に乏しく、生産性が低い。そのうち80-85%は砂丘であり、15-20%は比較的粘土質の土壌である。これらの土壌は、生産性が低く、水と風食に弱い。 灌漑の可能性がある土地は、ニジェール川沿いの国土の4%である。 農業の99%は、雨に依存している。 周縁部の開墾により、穀物栽培用地を拡大している。 畜産は国内第二の産業であるが、1961年にはGDPの21%を占めていたのが、1991年には13%にまで落ち込んでいる。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> 「砂漠化対処及び天然資源管理のための国家行動計画」となっている。 砂漠化対処及び天然資源管理の国家戦略は、次の原則に基づいている。 * 統合的地球規模アプローチ * 干渉の一貫性と利害関係者間の団結 * 「村落管理アプローチ」に沿った干渉 * 効果的な地方分権を通じた、特に女性と若者に重点を置いた住民参加 * 利害関係者間のパートナーシップの強化 * 成果活用 * 長期的ビジョン * 行動の調和のとれた分配 			対外負債(公的及び公的保証長期負債) 1,604百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
ナイジェリア	923,770m ²	88,514,501 (1991) 3.2%	N 4-14 E 2 2'-14 30'	US\$390	原油、カカオ
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・北東部及び北西部がサヘル砂漠覆われており、国土面積の5-10%以下に当たる。 ・砂漠化の度合いや強度は、明らかになっていない。しかし、高本を含む植生から草本及び灌木のみの植生への変化など砂漠化の徴候が可視されている。 ・推定によると、Bauchi, Corno, Gombe, Jigawa, Kano, Katsina, Kebbi, Sokoto, Yobe及びZamfara州の50-75%が砂漠化の影響を受けている。これらの州には、2700万人が住んでおり、国土面積の38%を占める。これらの地域では、過放牧や過耕作により、さらに砂漠化や干ばつが悪化している。 ・最北部のKatsina, Sokoto, Jigawa, Borno及びYobe州では、村全体や主要道路が砂に埋もれている。 ・砂漠化の影響を受けている地域から流出する人や家畜の圧力は、首都やAdamawa, Tawaba, Niger, Kwara及びKaduna州などのバッファゾーンで吸収されている。これらバッファゾーンの10-15%が砂漠化の危機にあると報告されている。 ・砂漠化の原因については、自然条件としては、気候変動が最も大きな原因と考えられている。社会的要因としては、過耕作、過放牧、火入れによる森林破壊及び脆弱な灌漑が挙げられている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・温暖な熱帯気候で、通年比較的気温は高い。 ・乾期と雨期の2シーズンがある。 ・年間降雨量は南では2500mm、北では400mm以下。 			<ul style="list-style-type: none"> ・高地、台地、丘陵、平原、溪谷からなる。 ・高地と丘陵の大部分は、火成岩からなる。 ・Jos台地やAdamawa高地は、火山岩も見られる。 ・国土の北部半分はなだらかな傾斜が広がる盆地。 ・主な河川及び湖沼は、チャド湖、カインジ湖、ニジェール河、チャリ河、ラゴン河がある。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の10%が森林保護地域となっている。 ・南部から北部にかけて、マングローブ、淡水湿地、降雨林、ギニア・サバンナ、スーダン・サバンナ植生が見られる。 ・国土の25%はスーダン・サバンナに覆われている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生産性が高いfluvisols, regosols, gleysolsが6%、生産性が中位のlixisols, cambisols, luvisols, nitosolsが46%、生産性が低いacrisols, ferralsols, alisols, vertisols, arenosols, nitosolsが48%となっている。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の35%は耕作可能地と考えられている。 ・国土の15%は牧畜に利用されている。 ・農業形態は、休閑地のローテーション、永久または半永久耕作、混合農業の3タイプである。 ・人口増加に伴い、休閑地のローテーション間隔が短くなってきている。 ・牧畜は遊牧が主で、乾期には近隣諸国からも遊牧民がナイジェリアに流入する。 ・都市化が急速に進んでおり、農用地の拡大及び農業形態に影響を与えている。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画は次の原則に基づいている。 ・*地方レベルの行動を国家レベルの行動が補足 ・*マルチ・セクターによる統合性 ・*全ての利害関係者と努力の相乗的結合 ・*資源利用者、民間、NGO、政府、ドナー等のパートナーシップ ・*既存の活動への提言された行動の付加 ・国家行動計画の目標は、土地の生産性を向上させ、土地の回復・保全・持続的管理のための長期的統合的戦略を開発すること。 ・国家行動計画では、砂漠化の要因及び具体的対策を確認すること、多様な利害関係者の役割を明らかにすること、砂漠化防止及び干ばつの影響軽減のための戦略を立てることについて取り上げている。 ・分野毎に活動と責任者、指標等を表にまとめている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・北部で世銀やEUの支援を受け、政府がシェルターベルトやウッドロットの植林を実施している。 		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			28,057.1百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
南アフリカ	1, 221, 037 km ²	44, 819, 778 2.0% (1995-2002)	S 22 - 35° E 16 - 32°	US\$3, 551	農業、鉱業 工業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の根拠的原因の一つとして、農村の貧困が指摘されている。 ・土地の劣化は、全国で起こっているが、特に前のホームランドにおける土地劣化が深刻である。しかし、歴史的に民間所有だった土地でも土地劣化が問題となっている。 ・南アフリカ固有の砂漠化の要因として、広大な共有地が存在するホームランドにおける土地所有形態が挙げられている。また、種々の補助金、干ばつ救済措置、市場コントロールなど過去の農業政策が土地劣化を引き起こした要因として指摘されている。さらに、農村における非農業経済活動の未発達、急速な都市化及び土地と農村間の人口移動など構造的な問題が持続的的土地管理に対処するために解決されるべき問題となっている。 ・土地劣化に関して東部のKarooが最も注目すべき地域となっている。 ・水食が土地劣化の最も重要な問題となっている。 					
気象・気候²⁾			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・夏期は10月から3月。冬期は5月から8月。 雨季は11月から3月。東と西で雨の降り方が大きく異なる。東部は季節風の影響で夏に雨が降るが、南西の海岸はいわゆる地中海性気候で、移動性低気圧により冬に雨が多い。降雨量は東側から西側へ行くにしたがって少なくなる。 					
植生被覆状況			土壌		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
			<ul style="list-style-type: none"> ・2002年に南アフリカ農業の戦略計画(The Strategic Plan for South African Agriculture)が打ち出された。核となる戦略としては、「黒人のエンパワーメントを含む平等なアクセスと参加戦略」、「国際的競争力と利益創出」、「持続的資源管理」を挙げている。 ・農業資源の持続的利用法案(the Sustainable Use of Agricultural Resources Bill)が1983年に発令された農業資源保本法にとって代わり、持続性を確保する土地管理の規則を示している。 ・近年、貧困者に焦点を当てた包括的農業支援プログラム(Comprehensive Agricultural Support Programme)が公布された。 (「砂漠化対処国家行動計画」) 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画のビジョン、それに到達するための目的、さらにその目的を達成するための八つの優先分野が示されている。また、八つの分野にまたがる前提条件として、「持続的的土地管理と貧困削減」、「ジェンダー」、「持続的的土地管理のためのパートナーシップ」が挙げられている。八つの優先分野は次 ・八つの優先分野は次のとおり。①ガバナンスの強化、②地方の組織強化、③財政及び資源の効果的活用、④知識及び情報の創出・伝達・活用、⑤政策改善のアクセス、⑥土地改革プログラムの持続的成果の保障、⑦同プログラムの継続的向上とモニタリング・評価、⑧地方で実施するプロジェクトの戦略。 ・国家行動計画の目的達成のために、3年以内に織の新編成、政府・民間・国際援助機関、市民等のパートナーシップの構築などを目指すとしている。 					
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			9,427.1百万米ドル		

1) 外務省HP

2) <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
スワジランド	17,000km ²	929,718 (1997) -	S 26 - 27° E 31 - 32°	US\$1,653	農業、鉱業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の程度を評価する書類がないため、砂漠化の度合いを示すのは困難となっている。 ・共有放牧地の55%以上が深刻または非常に深刻に侵食されていると推定されている。 ・土壌劣化及び土壌侵食は、全国で進行している。中央ベルデでは土壌侵食が深刻で過去25年間に倍増している。(注:ベルデとはアフリカ南部で特徴的な低木やまばらな林がある草原。) ・放牧地の半分以上が荒廃しており、生産力が著しく低下している。 ・灌木地の囲い込みや化学肥料の過剰な利用も問題となっている。 ・低ベルデが年降雨量が500mm未満で、降雨の変動が大きく、最も砂漠化が進行しがちな地域となっている。 ・不均衡な人口分布が、高人口密度の地域で再生利用の範囲を越えた土地及び環境資源の利用を余儀なくし、資源の枯渇を招いている。土地所有形態が不均衡な人口分布の一因となっている。 ・土壌侵食及び土地劣化が最もひどいのは、共有放牧地である。 ・砂漠化の要因として、牧草の再生促進や農地開拓または居住地設立のために植生を焼き払う火入れが挙げられる。火入れは、乾燥している冬など不適切な時期に実施されることが多い。 ・農地開拓や居住地開拓のための森林伐採も土地劣化の一因となっている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・年平均降雨量は、低ベルデの500mmから高ベルデの1500mmまで幅がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・標高の高い高ベルデから低ベルデまででなだらかな傾斜の地形となっている。 		
植生被覆状況			土壌		
			<ul style="list-style-type: none"> ・大部分の土壌は侵食に対して脆弱であり、特に腐食岩石を伴うferrosolsは脆い。高ベルデ及び上方中央ベルデではferrosolsが多い。また、高ベルデ及び中央ベルデの土壌は浅い。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・大部分の農家は、小規模な農地を有する自給自足的な農業を営んでいる。技術レベルは低く、初期投資も小さい。 ・不適切な農作物栽培や農業形態、施肥や殺虫剤の散布が全国で蔓延っている。 ・伝統的に畜産が優勢しており、全国土の67%が放牧に利用されている。 ・1992年時点で70万という家畜頭数は、望ましいとされる土地能力をすでに超えており、過剰放牧が植被破壊を起こしている。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画実施戦略のための基礎的指針を形成する原則として、次の点が挙げられている。(1)住民参加の強調、(2)コミュニティが自ら目的を達成できるような環境の提供、(3)砂漠化対処条約の活動を持続的開発に関する他の国家政策と統合するためのプログラム・アプローチの採用、(4)様々な利害関係者と政府間のパートナーシップ、(5) Learning-by-doingアプローチを基本とする。 ・国家行動計画の目的を明らかにするものとして次の14プログラム分野について目的、成果、活動、他のプログラムとの関係、実施体制、タイム・フレームがまとめられている。①組織体制、②族長と民衆間の境界に係る協議、③意識啓発及び能力開発、④土地管理プログラムにおけるコミュニティの参加、⑤荒廃地の再生、⑥国家森林政策の立案と森林利用の枠組の構築、⑦研究と技術、⑧インフラや建造物の建設サイトの適切な配置、⑨代替エネルギー源の開発、⑩畜産管理形態の向上、⑪干ばつ緩和及び貧困削減戦略、⑫土地利用政策、⑬移住及び再移住政策、⑭人口政策。 			<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化対処に係るプログラムやプロジェクトが政府、準国営または民間、NGOによって実施されている。例えば、World Visionは、コミュニティ・ガーデンとローテーションによる放牧、土地再生の三つのプロジェクトを実施している。ただし、これら既存のプロジェクトは計画立案や実施におけるコミュニティの参加が十分ではない。また、同一省庁や部局内で重複するプロジェクトも多い。 		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			273.7百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業 ¹⁾
タンザニア	931,082km ²	22,533,800(1998) 2.8%	S 1° - 12° E 30° - 40°	US\$271	農業、鉱業 工業、観光業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の61%が乾燥地(乾燥地及び半乾燥地)である。 ・国土の61%が砂漠化の影響を受けていると推定されている。地域的には、ドドマ、シニャンガ、ムワンザ、アルーシャ、タボラ地域が土地劣化が進んでいる。 ・砂漠化及び土地劣化の直接の原因は、過放牧や不適切な耕作、植生の破壊、野火及び気候変動などによる植生の裸地化である。 ・砂漠化及び土地劣化の間接的な原因として、貧困、人口増加、土地所有形態が挙げられている。 ・砂漠化の影響としてアルーシャのマサイ族やシニャンガのスクマ族など乾燥地の民族が移住を余儀なくされ、移住先で地元のコミュニティと土地利用等を巡って衝突が生じている。また、土地の劣化は生物多様性を減少せしめている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯サバンナ気候: 雨期と乾期がある。 ・七つのアグロエコロジカルゾーンに区分され、そのうち二つが乾燥及び半乾燥ゾーンである。これら乾燥地では、年間降雨量は400-800mm。 					
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の90%は草本と灌木及び散在する木本からなるサバンナ植生に覆われている。 ・国土の46%が森林及びウッドロットに覆われており、40%が草原に覆われている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の9%が中～上の生産力、23%が低～中、68%が低い生産力。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・農用地は国土の8%を占める。 ・農地は小規模保有が優占している。 ・最も農地に適しているのは北東の火山地帯、南部高原、及びビクトリア湖周辺である。 ・人口及び家畜頭数の増加に伴い、休閒期間が短くなり、あるいは、施肥を伴わない継続的耕作が実施されている。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画の特徴が次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> * 過去の砂漠化対処や干ばつの影響緩和の経験を活用する。 * 砂漠化や干ばつの要因及びそれらに対処するための資源や能力を確認する。 * 女性や牧畜民を含む地域住民及びコミュニティの参加を促進する。 * 貧困を削減するため経済的環境を向上する。 * 天然資源を保全する。 * 組織体制を向上する。 * 砂漠化に対する知識を向上する。 * 干ばつ及び砂漠化の影響をモニターする。 ・アグロエコロジカルゾーン別に問題を特定し、それを踏まえて砂漠化対処の優先地域を確定している。さらに、各優先地域における優先して実施すべきプログラム及び活動を記載している。 					
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			6,181.8百万米ドル		

1) 外務省HP

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
ウガンダ	241,000km ²	22,000,000 -	N 40° ~S 10° E 29.5° ~35°	US\$242	農業、漁業、 観光
砂漠化の現状と要因 <ul style="list-style-type: none"> 干ばつは主に北部～東部の県で生じ、これらの地域では5年毎に深刻な農作物不足に見舞われている。 干ばつが繰り返しおこり、部分的に砂漠のような状況を呈しているモロト、カンテイド、モヨ、ブンヂブジョ、ナカソングァ及びルウェロ県では慢性的な食糧不足となっている。また、ソロティ、クミ、トロロ、ネビ、カバロレ、カセセ、ブシェニ、マサカ、ムビギ及びムベンデ県でも食糧保障は長続きしないといわれている。 主な砂漠化の要因として、干ばつ、森林破壊、不適切な農業及び過放牧が挙げられている。人口増加に伴う土地への圧力増加とともに貧困も砂漠化の要因に悪影響を及ぼしている。 					
気象・気候 <ul style="list-style-type: none"> 熱帯気候で、気温は16～27度、年降雨量は最も乾燥しているところで500mm、最も湿ったところで2000mm。 乾燥地域の年降雨量は500-800mm。 			地形		
植生被覆状況 <ul style="list-style-type: none"> 国土の6.3%が森林保全地域、6.5%が国立公園、3.2%が恒久湿地となっている。 			土壌		
農業の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 国土の70%は耕作可能地域である。 人口の90%が農村に住んでおり、耕作及び牧畜に依存している。 家畜の70%は伝統的な形態で所有され、30%だけが商業的牧場で近代的な農法の基に飼育されている。 農作物の94%は2haに満たない小規模農家によって生産されている。 			農業農村開発政策		
国家行動計画の概要及び取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ウガンダの国家行動計画は、計画立案のために開催されたフォーラムの内容とそれに対するワーキンググループの協議結果という形でまとめられている。国家行動計画として最終的に決定されたものという位置付けが不明確である。 ワーキンググループは国家行動計画が取り扱うべき主要な問題として、水供給の不足、不適切な農耕、貧困、情報交換の不足等21の問題を特定している。さらに、同グループは、国家行動計画が優先すべきプログラムとして、情報の交換・発信、意識啓発、土壌保全、土地所有政策や経済政策、代替エネルギーの促進、造林及びアグロフォレストリー、マイクロクレジット、市場及びインフラの開発など11のプログラムを提言している。 また、ワーキンググループは、国家行動計画のプロセスを支援するためのアレンジとして、調整の強化、制度的枠組や政策の整備、コミュニティやNGOへの支援などを提言している。 			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債) 3,690.2百万米ドル		

国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
ザンビア	752,972km ²	10,200,000 3.1%	S 8 - 18° E 22 - 34°	US\$398	鉱業(銅)
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・砂漠化の影響をひどく被っているのは南部の州(東、中央、西部、南部、ルサカ)であり、北部の州(北部、北西部、銅ベルト、ルアブラ)は砂漠化の影響は軽度である。 ・州によって土地劣化や砂漠化の問題及びそれらの要因は若干異なるが、低い農業生産性、低い地下水位、放牧地の生産力の低下、土壌侵食、エネルギー不足などが砂漠化の問題として挙げられている。また、砂漠化の要因としては、高いエネルギー需要、農地開拓、不適切な放牧管理、情報不足、人口増加などが挙げられている。 ・土地劣化の原因として、組織体制や政策、制度的問題に並んで、自然、環境、社会、経済及び土地所有が挙げられている。 ・国土の80%が低度の土壌侵食を被っている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・三つのアグロエコロジカル・ゾーンに区分される。 ・地域 Iは、乾燥しており、年降雨量は800mm未満。 ・地域 IIは、年降雨量が800-1200mm。 ・地域 IIIは、年降雨量が1200mm以上。 ・温暖な雨期(11-4月)、冷涼乾期(5-7月)、暑い乾期(8-10月)の三つの季節がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアは中央アフリカ高原に位置し、平均標高は1200m。国土の東部と南部を形成するリフトバレーが断崖と渓谷を生み出している。 ・主要河川としては、ザンベジ、Kafue、Luangwa、Kabompo、Luapula及びChambeshiなどがあり、水資源に恵まれている。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土の60%は森林(疎林を含む)で覆われている。 ・国土の27%は草本で覆われている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの大部分の土壌は多雨により極度に溶脱され、酸化されている。 ・西部の土壌は極度に酸化されており、粗～細かい砂からなる。東部及び南部中央台地の土壌は溶脱が中くらいに進んだ粘土質の土壌からなり、中～強度に酸化が進んでいる。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・大部分の人が農業や林業など天然資源にその生存を依存している(国家経済としては銅採掘が主要な産業である)。しかし、持続的な土地管理となっていないため土地の劣化が進んでいる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・1992年に農業及び協同省によって「農業セクター投資計画(The Agricultural Sector Investment Programme: ASIP)が立案された(施行は1996年)。ASIPは農作物生産の多様化や水資源開発、女性の経済的地位の向上等を通じて持続的農業を実施し、食糧保証の確保や農業資源の持続性を確保することを目的としている。 ・2002年時点でASIPの後継として農業商業化計画(Agricultural Commercialisation Programme: ACP)が農業及び協同省によって作成途上にある。 ・砂漠化対処国家行動計画の中で、同国家行動計画は食糧保障や土地資源の保全などを旨とする農業戦略を支援し、農業開発に貢献すると述べられている。 		
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家行動計画のビジョンは、貧困を削減し森林を持続的に開発するため持続的な保全方法を用いて土地の生産性を回復することである。 ・国家行動計画の目的は、砂漠化の要因を特定し、砂漠化対処及び干ばつの影響緩和の具体的な対策を講じることである。 ・国家行動計画の目的を達成するための優先すべきプログラム分野としては、①早期警告及び即応態勢、②森林・生態系及び種の保全、③水資源の補足とエネルギー保全、④協力とネットワーク、⑤プログラム調整部局及び主要人物の能力強化、⑥普及及び意識啓発、情報発信、⑦土地劣化の評価、モニタリング及び報告、⑧固有の知識を含む環境に優しい技術の活用、⑨生計向上、⑩食糧の自給と保障、⑪移住管理、⑫制度及び政策の見直し、を挙げている。 ・実施期間は5年と提言されており、この間全てのプログラム実施に係る費用は2660万US\$と見積もられている。政府、ドナー、NGO、コミュニティ等がこれらの経費を賄うことを期待している。 ・国家行動計画の実施及び調整を図る機関として、砂漠化対処国家調整委員会及び砂漠化と干ばつに係る国家技術委員会などの設立が提言されている。 			<p>4,737.4百万米ドル</p>		
			対外負債(公的及び公的保証長期負債)		
			4,737.4百万米ドル		

Agro-ecological Zones in Zambia

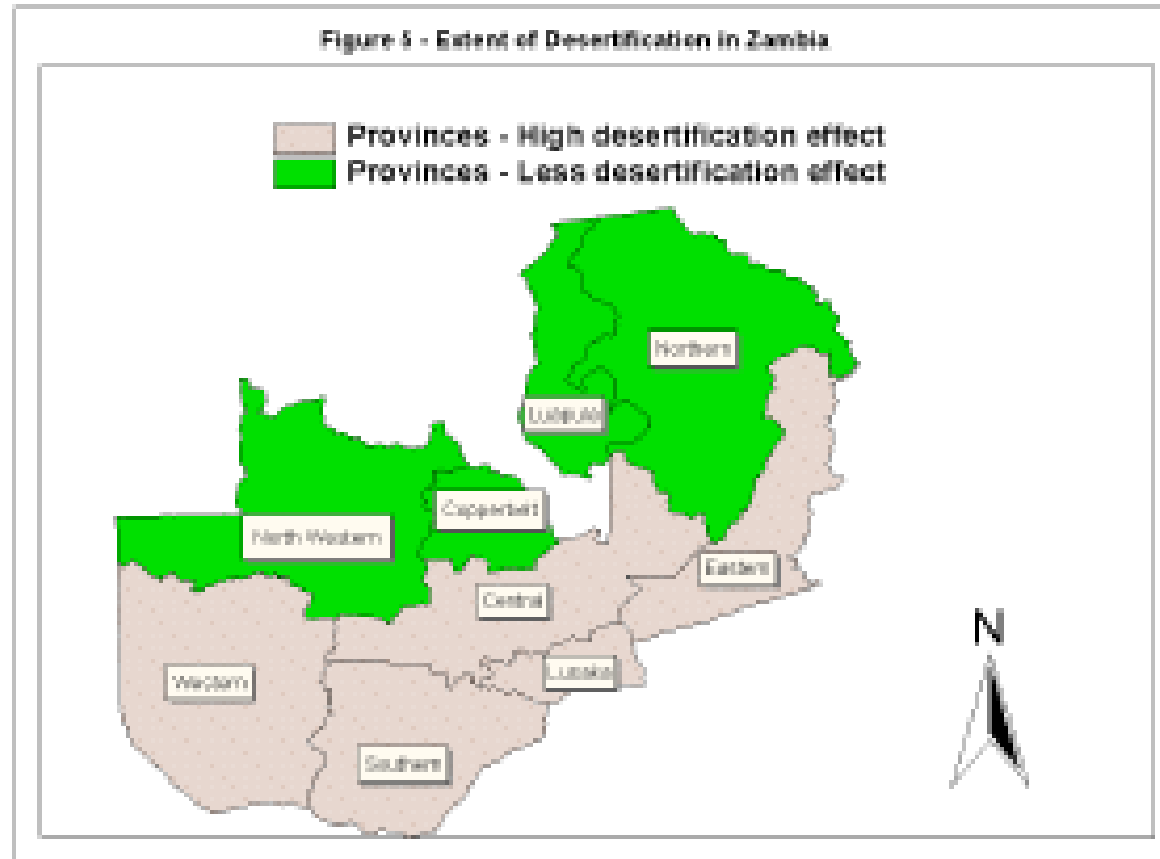
Region I. This covers the eastern and southern rift valley areas. It also includes the southern parts of Western and Southern Provinces. It is characterised by hottest and driest climatic conditions, with rainfall of less than 800mm per annum and is categorised as semi-arid. It has a short growing period (season) of between 80 and 120 days. The rainfall is highly variable and unreliable within one rainy season, and between the years; putting predicament on agricultural development. The rainfall intensities in this region are very high. These can induce the process of soil erosion if the land is devoid of vegetation through erosivity. The steep slopes along the escarpments have high erosion risk.

Region II. This region covers the sandveld plateau zone of Central, Eastern, Lusaka and Southern Provinces. The region is a medium rainfall zone with 800-1200mm per season, and has a growing season of 120-150 days. This is the most productive zone in the country. However, use of machinery, prolonged crop production over a period of time on the same portions of land and continuous application of chemical fertilisers have generally affected the natural soil qualities, and the soils are degraded.

Region III. This is part of the central African plateau covering Northern, Luapula, Copper-belt and North Western Provinces, as well as parts of Serenje and Mkushi Districts. The region is a high rainfall area of 1,200mm and above and has a growing season of up to 190 days. The high rainfall has resulted in considerable leaching and the soils are highly acidic, limiting the range of crops that can be grown in this region, especially if special farming practices are not employed.



Figure 5. Extent of Desertification in Zambia



国名	国土面積	人口/人口増加率	位置	1人当たりGDP	主な産業
ジンバブエ	390,000km ²	10,412,548(1992) 3.14%	S 15° ~22° E 24° ~33°	US\$190	農業、鉱業
砂漠化の現状と要因					
<ul style="list-style-type: none"> ・土地劣化の人為的要因としては、周縁部の人間及び家畜の過度な集中、不適切な農業、金採掘、貧困、農村コミュニティによる森林への過度な生計依存による森林破壊が挙げられている。 ・土地劣化は収入及び資源へのアクセスの不均衡という文脈で理解される。 ・農村コミュニティが薪炭に過度に依存しているというエネルギー問題も土地劣化の中心的問題である。 ・貧困と環境の関係が土地劣化に貢献していることについて、これまで真剣に検討されてこなかった。 ・土地劣化は、都市の貧困者における環境問題を創出する農村と都市間の移住をも引き起こしている。 ・環境管理に係る組織的体制及び制度も環境政策の効果的施行を妨げている。 					
気象・気候			地形		
<ul style="list-style-type: none"> ・亜熱帯気候で、暑い乾期(8月～11月)、暑く湿潤な時期(11月～4月)及び冷涼な乾期(5月～8月)の三つの季節がある。 ・気温及び降雨量は標高によって異なる。東部高原の高ベルデでは気温が低く、降雨は1000mm以上で最も多い。低ベルデでは年降雨量は400mm以下。 			<ul style="list-style-type: none"> ・標高300m～1200m。 ・国土は高原によって形成されており、この高原がザンベジ河及びリンボボ河の流域を形成している。 ・高ベルデは標高1200m以上の高原となっており、中ベルデは標高900-1200m、低ベルデは標高600m以下となっている。 		
植生被覆状況			土壌		
<ul style="list-style-type: none"> ・草地化した排水ラインが点在するサバンナ林が優占している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・黒色ミネラル岩からなる重いローム土壌が点在する砂状または砂上ローム土壌が優占している。 		
農業の実施状況			農業農村開発政策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ジンバブエの経済は農業が基盤となっており、環境問題の多くの部分は農業や他の土地利用と関係している。 					
国家行動計画の概要及び取り組み状況			国際機関・ドナーによる砂漠化対処に係る援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・次の八つの優先プログラム分野を挙げている。 <ol style="list-style-type: none"> ①エネルギー問題 ②土地利用計画及び土壌保全 ③水資源管理 ④教育、意識啓発及び能力開発 ⑤代替生計手段の提供と貧困緩和 ⑥土地所有システム ⑦政策、制度及び組織体制の強化 ⑧研究支援 ＜注：上記8分野は要約に述べられている。しかし、本文中では、次のように述べられている。＞ ・国家行動計画実施フェーズは最初5年間のプログラムとし、(1)水資源の提供、(2)エネルギーの提供、(3)代替生計手段の提供、(4)教育、意識啓発及び能力強化、(5)地力回復、(6)国家行動計画のための環境情報システムの6分野に焦点を当てる。 ・国家行動計画実施のための財政を確保するためコミュニティによる土地劣化や干ばつ軽減に対する努力を支援するため国内外の財源をプールした「砂漠化/環境管理ファンド」設立することが国家砂漠化タスクフォースによって提言されている。 			対外負債(公的及び公的保証長期負債) 3,123.2百万米ドル		